

風土記の丘の花だより³²⁸

今、そしてこれから見られる植物(2026年7月4日)

7号8号のダブル台風は、この辺りでは何事もなく過ぎ去ったみたいで、何はともあれ良かったです。おかげで、というとおかしいですが、野山は十分に潤いました。そのせいもあってか、いろいろなキノコがあちらこちらで出てきています。



オレンジ色の大きな花、オニユリが咲き始めました。こんなに豪華できれいなのに「鬼」とは・・・。もっといい名前はなかったのでしょうか。これからいろいろなユリが咲き始めるので楽しみです。それにしても、ユリは茎の細さに対して、花が余りにも大きいので、支柱を立てないと、ちょっとした風で倒れてしまいます。園芸種ならわかりますが、こんな野生のユリでも同様です。神様の計算間違いでしょうか。そんな非科学的な理由ではないでしょうが、ユリが咲く季節になると、ついつい考えてしまいます。



アジサイの花は色あせてきましたが、かわりにヤブカンゾウの花が鮮やかに咲いています。八重咲きの大きな花は存在感があります。漢方薬にも「かんぞう」がありますが、それは「甘草」と書き豆科の植物です。一方このカンゾウは「萱草」と書き、さて、何科なのでしょう。かつてはユリ科でしたが、今、本によってはワスレグサ科、スキノキ科、キジカクシ科、ツルボラン科などいろいろなことが書かれていて、はて？本当は何科なのでしょう。



大きな花が続きましたが、これはまたチマチマしていますねえ。ヒメドコロというつる草の雄花です。2、3ミリの小さな花が無数に咲いています。トコロというのは、ヤマノイモの仲間によく使われる名前です。つる草ですから、いろいろな木に複雑に巻き付いていて、どこに根元があるのか分かりません。この仲間にはいろいろな種類がありますが、万葉植物園で見られるものは、ほとんどヒメドコロとカエデドコロです。でも、鑑賞に向いているかどうかは、はていかなものなのでしょうか。



写真は小早川家住宅の庭で撮ったムクゲの花です。ムクゲにはいろいろな品種があって、基本的にはピンク色で花びらは5枚ですが、白、紅色など、色も違うし、一重咲きも八重咲きもあって、それこそ多彩です。育てやすい丈夫な花木で、少しくらい刈り込んでも毎年たくさんの花を咲かせてくれます。花は一日でしぼみませんが、次から次へと咲き続けます。中国が原産と言われているのですが、なぜか韓国の国花だそうですよ。松下